

第4回市長と語る！ふれあいミーティング（地域福祉推進組織座談会）会議録

- 1 日 時 令和8年9月30日（水）15時00分～16時30分
（地域福祉推進組織交流会の一部）
- 2 場 所 総合福祉センター大会議室
- 3 参加者 地域福祉推進組織（原市場地区社会福祉協議会（原市場）、なぐり広場（名栗）、加治東ふれあい広場（加治東）、たすけあいあがの（吾野）、ふくしの森・東吾野（東吾野）、ささえあい南高麗（南高麗）、あさひやまライフネット（美杉台））の代表者15名、市役所職員8名（市長、副市長ほか関係部署職員）、飯能市社会福祉協議会職員9名（事務局長ほか地域福祉推進係職員）

4 ミーティング内容

(1) 市長あいさつ

皆さん、こんにちは。飯能市長の新井重治でございます。

本日は地域福祉推進組織交流会の中にこのような座談会の場を設けていただきました。誠にありがとうございます。

この場を「市長と語る！ふれあいミーティング」と位置付け、7つの地域福祉推進組織の代表者の方と、様々な意見交換ができればと思っております。

各地域福祉推進組織の特色や強み、地域課題、それらを踏まえ、「ふくしの森プラン」の取組推進に関するアイデアなどのご意見をいただき、「連携」「協働」による地域共生社会の実現につなげていければと考えております。

話は変わりますが、昨日は9月定例会の閉会日でございました。全ての議案について、ご議決、ご同意等賜り、無事終了したところです。この場をお借りしてご報告させていただきます。

今年度の「市長と語る！ふれあいミーティング」はこのような形で各分野、各部門の方々と対話をしていきたいと考えておりますので、ご理解いただければと存じます。本日は皆様から、忌憚ないご意見を頂戴できればと思っております。

それでは、よろしくお願いします。

(2) 参加者紹介

(3) ミーティング内容

①趣旨説明

飯能市は、今年度から本市の最上位計画である第6次飯能市総合振興計画をスタートしました。その柱の一つとして「あんしんづくり」を基本目標とし、福祉施策の充実などを図ることにより、「誰もが住み慣れた地域で安心して健やかに暮らすことができるまち」を目指しています。

地域福祉の分野では、令和6年度から「第4次はんのうふくしの森プラン」をスタートし、共通の目標に対し、「市民」、「飯能市」、「社会福祉協議会」が連携

しながらそれぞれの取組を推進しているところです。

「市民」の取組については、「圏域別ふくしの森活動計画」に定め、推進していただいております。圏域内の様々な団体・個人が参画している地域福祉推進組織は、それぞれの活動を結びつけるネットワークの役割も果たされています。

本日は着実に計画を推進していくため、市政全般に大きく寄与していただいている皆さま方の活動・取組をお聞きするとともに忌憚のない意見を頂戴したいと考えております。本市において地域共生社会が更に発展できるよう、また、各地域が住みやすい地域づくりにつなげてまいりたいという考えから、このような機会を設けさせていただきましたので、よろしくお願いします。

②「テーマ1 それぞれの地域福祉推進組織の特色、強みなどについてお聞かせください。」

(※「→」は組織の方の発言。「○」は市側の発言。以下同じ。)

原市場地区社会福祉協議会

→原市場の現在人口は約6,000人。年間約2%ずつ人口が減っているので、10年後には約4,800人ほどになるのではと考えている。そういった中で今年「たすけあい原市場」という助け合いの組織を発足することができた。活動を始めてみると難しい点もあるが、やる気のあるメンバーが集まっているので、これからが楽しみであり発展が望めるのではないかと考えている。各地域で高齢化が問題となっているので、担い手の問題もある中ではあるが、市の協力もいただきながら活動を推進していきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

○「たすけあい原市場」の活動の内容についてお聞かせください。

→介護保険にかからないニッチな部分を目指した。ヘルパーさんのできない「草刈り」、家の中の「電球の交換やモノの移動」などを行っている。また、「ゴミ出しの支援」を実施している。

今年の7月から実際に活動を始めているが、「草刈り」の依頼が多く、約2か月で15件の依頼を受けている。石油がなかなか供給されづらい地域であるので、これから冬場に向け、「買い物支援」の準備も行っているところ。

○介護保険の給付の対象となる手前の方の支援は非常に重要だと考えています。「買い物支援」のお話もあったが、山間地域に限らずまちなかでも高齢者の足（移動手段）の問題があります。ここで「たすけあい原市場」が発足したことは地域の皆さんにとっても大変ありがたい活動であるという印象を受けました。

○「たすけあい原市場」の大変素晴らしい取組についてお聞かせいただきました。「買い物支援」や「ゴミ出し支援」もサービスを受ける方にはそれぞれの事情があると思いますので、そういったことを考慮していただきな

がら、活動を進めていただきたいと存じます。

なぐり広場

→「なぐり広場」を構成している各組織が自立していることが、地域福祉推進組織としての強みだと認識している。「なぐり広場」は原市場地区社会福祉協議会を除くと最初に組織化しているが、その後、各地でも組織が立ち上がった。組織の相対的な評価は市や飯能市社会福祉協議会に客観的にしていただき、ご指摘いただけるとありがたい。

○自立されているとお話された組織について教えていただけますか。

→「たすけあう名栗」では例えば高齢の方のペットの世話など、介護保険サービスで補いきれない部分への対応であったり、草刈りや掃除等のサービスを行っている。「名栗の風」はサロン活動の場までの送迎を行っており、また、「ちびっこランド」では無償保育を行っている。

○活動の担い手の人数は多くいらっしゃいますか。

→慢性的に人手不足が続いている。人数を増やしたいという思いはあるが、そういった中でもなんとか補ってやっている状況を踏まえ、それぞれの組織が自立していると説明させてもらった。

○支援サービスの需要と供給のバランスは取れていらっしゃいますか。

→（需要にあった供給は）できている。「ちびっこランド」の活動では、保護者である若い世代の関係性もできつつあるので、今後の支援活動につなげていきたいと考えている。

加治東ふれあい広場

→「加治東ふれあい広場」は平成23年に設立された。サポーター63名で、サロン活動や有償生活支援活動を行う「たすけあい・あいわネット」など8つの部会で活動している。自治会との連携を重要視しているので、自治会長などにも相談役となってもらい、組織運営を行っている。

生活支援活動の面では、車での移動支援ニーズへの対応が課題となっている。隣の加治地区での活動では、車での移動支援のニーズが全体の約8割となっているとお聞きした。自家用車を用いての活動となるので課題があるが、私どもも来年4月から実行できるよう準備を進めている。

高齢者支援の件でお願いがある。広報や機関紙を自治会の回覧で回しているが、高齢者の方が一人暮らしになると自治会を退会してしまうため、情報が行き届かない。そのため、自治会に入っていない方の情報が欲しいが、個人情報保護の関係でもらうことができない。防災・減災の面でも自治会への加入の必要性があるので、市でも啓蒙活動を行ってほしい。

○自治会未加入については、新聞等でも取り上げられており、全国的な課題だと認識しています。また、今日の地域福祉推進組織からの参加メンバ

一の中に市議会議員の方もいらっしゃいますが、議会の一般質問でも取り上げられています。

個人情報保護の関係ですが、時代の変化に合わせ法整備も進んでいる中、コミュニティの形成の面ではやりづらさがあると認識しているところ です。自治会への加入、未加入の問題は別としても、地域における顔の見える関係性づくりや仲間同士という視点がないと、地域共生社会の実現に向けた取組は難しくなってしまうと考えています。

加治東地区は区画整理事業の進捗もあり、市内において人口が急増している地域です。こどもや子育て世代の方を地域で支える皆さまの活動を大変ありがたく思っています。

→転入時に市民課で自治会加入について勧めていただくようお願いしたい。

たすけあいあがの

→吾野地区は面積が広く、谷津があるため住宅が各所に存在している。誰一人取り残すことなく、まとまっていくために、地区を4つに分け、茶の間、サロンなどの事業を行っている。2週間前に自治会と「たすけあいあがの」が地区ごとに敬老祝賀会を行ったところ、非常に多くの参加があった。10月4日にも体育祭があるが、「たすけあいあがの」も合同で参加する。吾野地区ではこれまで地区全体で横のつながりを作ってきた。それを大事にしながら活動ができていることが、この地区の強みだと考えている。

○吾野地区には昔からの地域の文化があるため、今でも事業を行った際に多くの参加者が集うことができ、それが地域の強みの一つなのだと思います。茶の間や移動・買い物支援に取り組まれています、支援する側の悩みはありますか。

→個々に悩みはあるとは思いますが、前向きな姿勢でいないとそこに集まった方たちが暗くなってしまうので、集まったら楽しくやろうという姿勢でいる。

また、「たすけあいあがの」にはサポーターとサポートを受ける方がいるが、いつも我々が話しているのは、どちらも一緒に、できないことは皆でやっ払いこうということ。サポーターはサポートをしてあげているという意識を持つのではなく参加者の皆が同じように楽しむという意識を持ちながら活動を行っている。

ふくしの森・東吾野

→「ふくしの森・東吾野」の取組の中で特徴的なのは移動販売。2年目に入っており、多くのお客様に買い物をしていただいている。東吾野地区の人

口は約1,500人、世帯数は約750世帯。地区は5つに分かれており、協力委員は約180名いる。人口1,500人に対し協力委員180名という数字が地元愛を表しているのではないかと。東吾野は温厚で、皆で仲良く楽しくやっという姿勢の方が多く、地区だと思う。東吾野地区文化祭「ほっこり祭り」へは2日間で約400名の参加がある地区でもある。

地形的には地区の中に高低差があるため、地区全体でイベントを行う際には移動の面で難しい部分がある。ふれあいサロンやむーまいいきき体操の場を5つの地区ごとに設置・活動していることは強みであると考えている。

○東吾野地区の皆さんはそれぞれの地区での取組を行いながら、先ほどのお話にあった「ほっこり祭り」の際には東吾野地区全体で一丸となって取り組まれる地域であると思っています。5つの地区に協力委員が180人いらっしゃるという話を伺い、本当に大きな強みだと感じました。

ささえあい南高麗

→南高麗地区の人口は約2,000人、世帯数は約900世帯。山間地域でコンパクトにまとまった地域であり、傾向としては高齢化・人口減少がある。特徴としては、0～14歳の人口が増加している。これは“農のある暮らし”「飯能住まい」制度によって他市等からの移住者が増えていることによるもの。地域福祉推進組織として地域の強みを実感しているのは、地域の中の各種団体のつながりの強さ。各種団体のリーダー、中心人物に支え合い活動等に参加していただいている。

明日、3回目の南高麗福祉センターの今後のあり方についての話し合いが行われる。各種団体へ声かけをし、話し合いへの参加メンバーの人選を行っている。参加される方の声が南高麗地区の想いであると自信を持って言えるので、その声を聞いていただき、市長にはご判断いただきたい。

○移住制度の取組により移住者が増えている状況ですが、地域で移住者を温かく迎え入れてくれることで、新旧の住民が融合し、とても良いかたちになっていると感じています。住民同士のつながりが非常に強い地域だと思っていますし、これからも更に地域の取組を支え合いながら進めていただければと思います。

南高麗福祉センターについては、今後も対話を重ねながら、より良い方向に進めるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

あさひやまライフネット

→美杉台地区は矢風、前ヶ貫という古くからの地区に加え、山を切り開き美杉台というまちが誕生し、征矢町もでき、その後茜台も加わった。世帯数は約4,500世帯。人口は1万人を超えている。色々なところから新しく集

まった住民で構成されている。

「あさひやまライフネット」は平成30年に設立された。組織としては強みよりも、高齢化や担い手不足などを課題として認識している。事業としては、「健康ステーション事業」を実施し、脳トレなど高齢者の健康維持の取組を実施している。

また、「ライフサポート事業」では市からの委託を受け、要支援1、2及び基本チェックリストで利用判定が出た方を対象に掃除、洗濯、ゴミ出しの支援を実施している。委託方式では利用者が少なく限界があることから、地区で自由に行えるライフサポートを行う組織への転換が課題と捉えている。

○今日お集りの中では一番新しいまちにおける取組なので、独自の課題や調整事項があると感じたところです。これから顕著に高齢化が進む地区であると思いますので、市からの委託事業の検討など高齢者への対応をぜひお願いできればと存じます。

③「テーマ2 「圏域別ふくしの森活動計画」を推進するために地域福祉推進組織として力を入れていること、必要な取組等について」

あさひやまライフネット

→有償ボランティアの活動意向についてのアンケートを地域の全住民に対し実施し、約100人の方から「行ってもよい」という回答を得た。この結果を受け地域として、今後どのように事業を進めていくのかということを重要課題として取り組んでいる。

地区にはバス路線があるが、通院時の移動支援など高齢者の足の問題などもある。美杉台地区特有の課題に向き合い今後も取り組んでいきたい。

ささえあい南高麗

→今日の交流会の前半に、他地区の食事会の話聞くことができた。現在、南高麗地区ではその活動が止まってしまっているが、地域の困りごとをなくすためには、再開できたら良いと思っている。南高麗福祉センターには調理室もあるので、活用する取組を考えてみたい。

ふくしの森・東吾野

→高齢化が進んでいるため、新しい取組というよりも、いかにしてこの先も現状の取組を維持できるかということに力を入れている。

「あさひやまライフネット」さんも話していたが、生活支援活動は「ふくしの森・東吾野」でも市の委託を受け実施している。委託では「掃除」「洗濯」「ゴミ出し」しかできないため、支援活動を広げるには補助への変更の必要性を感じている。今年度から協力委員との勉強会を始め「補助」

へ変更となるとどのような仕組みになるのかを知るとともに、サービスのニーズの確認も進めていきたいと考えている。

たすけあいあがの

→「たすけあいあがの」では「こどもを育てる」ことに力を入れている。地域には小中一貫校である奥武蔵創造学園があるが、半数の児童・生徒がもともとは地区外から来ている。元気な地域となるとなるよう、住民による移住者・こどもが来やすい環境づくりを進めていきたい。

加治東ふれあい広場

→「たすけあい・あいわネット」での移動支援の取組とともに力を入れているのが、地域の財産の有効利用。例を挙げると区画整理地内の公園予定地を「いわっこぱーく」として管理・活用しイベントなどを開催している。また、駿河台大学との連携により、学生と地域のこどもたちとの交流も生まれている。

なぐり広場

→名栗圏域ふくしの森活動計画では、「居場所」と「移動支援」の二つを取組目標に掲げている。あるサロンの利用者が減少した際に、参加の呼びかけの範囲を広げたところ、利用者が10倍ほど増えた。高齢化の波に抗うことはできないが、そこをどのように解決していくか知恵を絞っている状況。

移動支援については、買い物や病院への送迎ニーズがあることは認識しているが、対応できていないことが課題なので行政にも協力をお願いしたい。

原市場地区社会福祉協議会

→南高麗地区と同様に、福祉センターのあり方の問題があるので、署名活動など存続に向けた取組を行っている。お盆の前に福祉センターに雷が落ち、エアコンが壊れたが9月17日に復旧した。迅速に連絡をいただいたことを含め市の対応に感謝している。

福祉センターに関連したところでは、センターを利用して野菜の無料配布を行っても良い、という声もあるので、そのような食品支援が行えないか。また、キッチンカーには若い世代、子連れの家族を呼ぶ力があると認識しているので、可能であればそういった取組ができるよう許可していただけるとありがたい。

地区の問題としては50代の方との交流が不足していること。この年代の方との交流がないと自治会が存続できないのではという危機感もあるので、交流を持てる取組ができないかと考えている。

(4) 市長・副市長総括